

堀内大使によるJICAチェア・プログラム初回講義への出席

2022年8月15日、堀内大使は、アフリカ連合委員会(AUC)とJICAエチオピア事務所が共催したJICAチェア・プログラム初回講義「アフリカにおける教育開発：日本の経験教訓(Education for Development in Africa: Experiences and Lessons from Japan)」に出席しました。

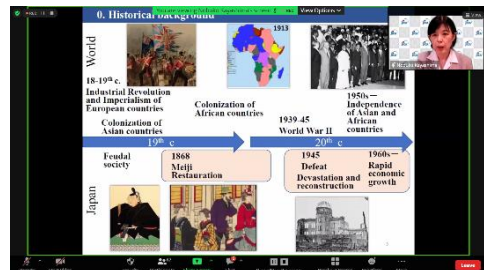
冒頭、AUCベルホシン教育・科学・テクノロジー・イノベーション委員より開会挨拶を頂き、その後、JICA 緒方貞子平和開発研究所の萱島信子シニアリサーチアドバイザーより「日本の近代化における教育開発」について約1時間の講義を、またユネスコ・アフリカ地域能力開発国際研究所(UNESCO-IICBA)の横関所長からは、「アフリカ教育セクターにおける日本の協力の特徴」について約30分の講義を行いました。

堀内大使は閉会挨拶において、冒頭、AUC教育・科学・テクノロジー・イノベーション局と協力しつつ、JICA本部及びエチオピア事務所主導が今次JICAチェアを企画運営したこと及び汎アフリカ大学傘下の各大学の教員及び学生が参加したことに対する感謝を申し上げた上で、(1)萱島シニアリサーチアドバイザー及び横関所長から、第2次世界大戦後の日本の教育の経験と教訓について、大変示唆に富むご講義を頂いたこと、(2)日本の苦闘の経験は、「非西洋」発の経験として価値があり、1人1人が、自身の国、あるいはより広くアフリカに適應するやり方、モデルを考えて頂きたいこと、(3)JICAチェアの発案者の北岡JICA前理事長は、その著書の中で、「その国が直面するもっとも重大な課題に、もっとも優れた才能が全力で取り組んでいるかどうかが決定的に重要」と言及していること、(4)8月27日、28日に、日本政府が主導し、アフリカ連合委員会(AUC)等と共催する「第8回アフリカ開発会議(TICAD8)」を開催する。日本は、あらゆるパートナーと一緒に、将来の担い手であるアフリカの若者を応援していきたいこと等を申し上げた。

同プログラムには、AUC関係者の他、約60名が参加し、日本の戦後の発展に教育が果たした役割や如何に同経験がアフリカに適用できるか、活発な意見交換が行われました。



ベルホシン委員による開会挨拶



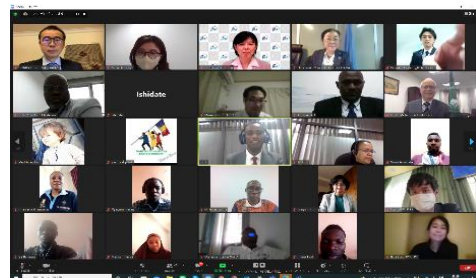
萱島 JICA シニアリサーチアドバイザーによる講義



横関UNESCO-IICBA所長による講義



堀内大使による閉会挨拶



集合写真